# 『みんなのねがい』を読むには…

**●一人から始める**

個人年間購読を申し込んでいただければ郵送でお届けします。

| 『みんなのねがい』購読料 | |
|---|---|
| 書店注文 | 1冊 定価715円（本体650円＋税） |
| 個人購読 | 年間9,400円（税・送料含） |

**●みんなで読めば**

２冊以上とれば、「まとめ購読」。まとめ価格で送料無料でお届けします。

**●書店、セブンイレブンでも**

書店やセブンイレブンで申し込めば、毎月（16日発売）お店で受けとることができます。

お申し込みに必要な雑誌コード番号は「０８４４１」です。

**●見本誌無料で送ります**

**見本誌**をお送りする方

お名前　　お電話

ご住所　〒

ご紹介者のお名前　　お電話

見本誌希望はこちら！

## 購読申込用紙

| お名前（ふりがな） | 送り先ご住所　〒<br><br>お電話 |
|---|---|

①みんなのねがい（　　）月号から　個人年間購読を申し込みます

②みんなのねがい（　　）月号から　まとめ購読（　　）冊を申し込みます


**お申込・お問い合わせは**

**全障研出版部**　電話　03-5285-2601　FAX　03-5285-2603

〒169-0051

新宿区西早稲田２－１５－１０　西早稲田関口ビル４Ｆ

ホームページ　www.nginet.or.jp


出版部注文メールはこちら！

障害者の権利を守り、発達を保障するために

# みんなのねがい 2024

実践・暮らし・運動をつなぐ

1970年に創刊された『みんなのねがい』には障害のある人やその家族、実践者など、さまざまな人のねがいや希望、ときには、心の葛藤がつまっています。あなたの生活にそっと寄り添う、やさしくあたたかみのある一冊でありたいと思っています。

塚田直也（『みんなのねがい』編集長）

全国障害者問題研究会

# 2024年 『みんなのねがい』の読みどころ

『みんなのねがい』は障害児教育、福祉、家族のねがいがつまった障害者問題の月刊誌。
読みやすくてやさしい、そして障害のある人や子どもたち、家族、関係者をつなぐ雑誌です。

## 「私に人生と言えるものがあるなら」

教育 福祉

私は、教員時代と退職後の障害福祉の職場でも、障害の重い人たちとずっとかかわってきました。そこでの「個人的な体験」を書いていきます。私の「個人的な体験」との「対話」を通して問題意識が共有され、「人生なんとかなるさ」と少し気が楽になっていただければうれしいです。障害の重い人の生活指導や授業づくり、生活年齢の高い人の生活と人生、生活介護での実践など、実践現場の「物語」を綴っていきます。

**原田文孝**さん
（元特別支援学校教員、重度障害者通所事業所さち）

## 「発達を見る眼をゆたかに、おおらかに」

発達を学ぶ

かけがえのない子ども時代を、すべての子どもたちが、持てる力を存分に発揮しながら、いきいきと思いっきり楽しく過ごしてほしいと、こころから願います。そんな子どもの生活をつくりだすのは、“子どもらしさ”やその“幼さ“をおおらかに受けとめ、大切に見守る大人のまなざしがあるからではないでしょうか。大人にとって「なんで？」とも見える子どもの姿を、どのように理解し、向き合えばよいのか、できるだけ子どもの思いに寄り添って、考えてみたいと思います。

**寺川志奈子**さん（鳥取大学）

## 地域で　職場で　読者会 やっています！

こんにちは。八王子市読書会『アイビーの会』です。
月に一回、『みんなのねがい』のテーマに沿った勉強会、子どもたちの困りごとについて相談にのってもらったり。料理上手のメンバー企画のお昼ごはんの調理など、保護者同士の憩いのひとときとなっています。今回は、海老焼売と黒豆ごはん。とてもおいしくいただきました。来月のメニューが楽しみです。

香川弘子さん（東京）

# 乳幼児期から青年・成人期まで　教育に福祉、最新の情勢もこの一冊で！

# 2024年の『みんなのねがい』

## インタビュー

### いまを語り合う　浜田桂子さん（絵本作家）

日本・中国・韓国の絵本作家が手をつなぎ、子どもたちにおくる平和絵本シリーズ「日・中・韓平和絵本」にとりくむ浜田さんにいのち、平和、人権をテーマにお聞きします。

はまだ　けいこ／1947年埼玉県生まれ。84年に絵本「あやちゃんのうまれたひ」でデビュー。

へいわって
どんなこと？
浜田桂子　作
童心社

## 表紙　土佐和史さん（写真家）

本年度も表紙写真の担当をさせていただき光栄です。僕の写真で『みんなのねがい』を輝かせるお手伝いができればうれしいです。

## 心に種をまく

～世界、日本で起きていること

フォトジャーナリスト・安田菜津紀さんによるエッセイです。いま、世界で、日本で起こっていることを知るために。

## 実践に生かす障害と発達

発達障害や精神障害をテーマに、具体的な事例をもとに実践や支援の手立てを考えます。4～9月号は楠凡之さん（北九州市立大学）による解説です。

## 手記　この子と歩む

『みんなのねがい』といえばこの連載！
障害のある子と歩む家族の物語です。

## 障害のある人を理解する

福祉現場ではじめて障害のある人たちに関わる人に向けて、現場でよく見聞きするエピソードをもとに、障害のある人をどのようにとらえるのかやさしく学びます。

## 暮らしのエッセイ

日々の出来事やちょっと気になることなど、日常の視点から綴られます。4～7月号は加藤みのりさん（岐阜）です。

## 私ときょうだい

子どものころ、今のこと。
いろんな世代のきょうだいのみなさんが思いを語ります。

## 推し活

あなたの“推し”はなんですか？
好きなもの・ことにかける熱い思いを紹介！

## 実践の魅力

乳幼児期から成人期まで、各地のみなさんが綴る実践記録。自分の実践と重ね合わせながら一人で読んでも、みんなで読んでもおもしろい。
読者会で記事の読み合わせをしている方も♪

## ニュースナビ

障害児者をめぐる最新の情勢を学びます。
記事のちょっと見はコチラ
「ニュースナビ」→

## 2024年特集の予定

| | |
|---|---|
| 4月号 | ぼちぼち、のびのび、ゆるやかに |
| 5月号 | 行動障害を考える |
| 6月号 | 子どものうそ、仲間のうそ |

# 読者が語る！『みんなのねがい』の読みどころ

## 青森　間山 響子さん（特別支援学校教員）

私は、本に書かれている様々な立場の方のリアルな言葉に、いつも心が揺さぶられます。想像しかできないことが多い中で、本の中で語られた言葉から、知らなかった見方や感じ方、考え方に気づき、自分の小さな世界が広がるような感じがしています。毎月、自分が大切にしたいことを再確認するような気持ちで読んでいます。

## 奈良　福嶋 祥暁さん（特別支援学級教員）

働きはじめた頃に、職場で見本誌を読ませてもらったことが読みはじめでした。新たな気づきが多くありました。それ以降、忙しい毎日の中で、休みの日に時間を決めて読んでいます。『みんなのねがい』を読むと原点に返って考えなおすことができます。一番興味をもって読んでいるのは、家族のページです。共感できることも多く、自分の生活を考えるヒントのようなものがたくさんあります。仕事面でも家庭生活においても前向きに考えることができる一冊です。

『みんなのねがい』連載が単行本に！
全障研出版部　おすすめ書籍紹介

困難を突き抜ける楽天性、あなたの背中を押してくれる実践の数々がここにある。ねがいひろがる教育実践について考えます。

川地 亜弥子
（神戸大学・全障研副委員長）
『子どもとつくるわくわく実践
ねがいひろがる教育・保育・療育』
本体 1,800 円＋税

高齢期ならではの課題、高齢期だからこそ輝く発達の姿。
しごととは何か、生きるとはどういうことか、深く考えさせられる一冊。

張 貞京
（京都文教短期大学）
『高齢期を生きる障害のある人
人とつむぎ、織りなす日々のなかで』
本体 1,800 円＋税

注文はこちら→

## みんなのねがいを読む お父さん、お母さんの声

寺部 佳代子さん（愛知）

今年 24 歳になる娘が小学生になった頃から読んでいます。発達がゆっくりな娘をどう育てたらいいのか、自分はどう生きていくか、思い悩む私の視野を広げ、娘の人生の選択肢を増やしてくれたのは、ここで出会った様々な立場や年齢の人たちの言葉や経験、ねがいの数々でした。障害のある子と向き合う入門書であり専門書、たくさんの気づきと元気をもらいました。これからは娘たちが生きていく世の中のことにも目を向け、引き続き『みんなのねがい』から学びたいと思います。

清時 忠吉さん（大阪）

『みんなのねがい』は職場からの勧めがあって入職以来購読しています。読みやすく、わかりやすく、お手頃サイズなのがとてもいいです。子どもに障害があることがわかってからは、「この子と歩む」を一番はじめに読むようになりました。特集はバラエティー豊かなテーマ設定なので、どの号も永久保存版扱いになりますね。最近は「福祉現場の今を読み解く」「基礎から学ぶ障害と医療」「バトンゾーン」も楽しみにしています。編集後記もおもしろいですよ。

編集部 note では
過去のマンガ連載
など公開中！→

みんなのねがいを読むには
裏面を Check!